

福祉生活病院常任委員会資料

(令和4年3月22日)

【 件 名 】

- 1 令和3年度鳥取県青少年育成意識調査の結果について
(子育て王国課) . . . 2
- 2 令和3年度児童相談所一時保護所第三者評価の結果について
(家庭支援課) . . . 23

子育て・人財局

令和3年度鳥取県青少年育成意識調査の結果について

令和4年3月22日
子育て王国課

令和3年7月に実施した令和3年度鳥取県青少年育成意識調査の結果をまとめたので、報告します。

※青少年等の意識や行動の実態を的確に把握し、青少年の健全育成に係る施策の推進を図るため、昭和54年度から概ね5年ごとに実施。

1 調査概要

(1) 調査対象

小学2年、小学5年、中学2年、高校2年の児童生徒及びその保護者並びに青年（19歳から29歳までの者）の中から、無作為に抽出した者。

(2) 調査基準日

令和3年7月1日（調査期限：令和3年7月31日）

(3) 回答者数等

区分	小学2年	小学5年	中学2年	高校2年	保護者	青年	全体
調査客体	471人	458人	435人	420人	1,784人	1,681人	5,249人
回答者数	450人	420人	416人	413人	1,577人	397人	3,673人
回収率	95.5%	91.7%	95.6%	98.3%	88.4%	23.6%	70.0%

※小学2年、小学5年、中学2年、高校2年については、学校の学級単位で調査客体を抽出しているため、調査客体数が各区分でそれぞれ異なる。

※調査票の回答は、青年が紙媒体の提出又はオンラインによる本人の直接回答であるのに対し、小学生から高校生は学校が取りまとめ、県へ提出しているため、回収率に差がある。

2 調査内容及び令和3年度新規項目

- 家庭・家族、生活、友人関係、学校生活、進路・職業観、地域との関わり・地域での活動、心の状態、不良行為・非行、被害の経験など、青少年自身の意識や経験、青少年を取り巻く環境等について調査を行った。
- 調査内容は前回調査（平成28年度）の継続項目に加え、令和3年度は、ヤングケアラーの状況、SNS利用等、社会的に課題となっている事項について調査を行った。

3 調査結果の概要等

(1) 生活

「スマートフォンやテレビ等でゲームをする時間」を決めているか（単一回答、R3新規質問）
⇒ 「決めている」との回答は、小学2年と小学5年は6割あるが、中学2年では3割、高校2年では1割であり、年代が上がるにつれ割合は低くなっている。

「青年が普段自宅でよくしていること」は何か（複数回答、調査対象は青年のみ）
⇒ 「インターネットを利用する」、「テレビを見る」、「ゲームをする」との回答が高い。平成28年度調査と比較すると「インターネットを利用する（H28:65.5→R3:76.1）」、「ゲームをする（35.8→45.1）」の増加の差が大きく、「本を読む（26.9→19.1）」との回答が低くなっている。

(2) 学校生活

「学校生活」に満足しているか（単一回答）
⇒ 「満足している」と「ほぼ満足している」との回答が、小学2年で9割、小学5年と中学2年で8割、高校2年で8割弱を占めている。
平成28年度調査と傾向は同様となっている。

「登校前に学校に行きたくないと思うこと」があるか（単一回答）

⇒ 「よくある」と「時々ある」との回答が、小学2年で3割、小学5年と中学2年で4割、高校2年で7割を占めている。

平成28年度調査と比較すると小学2年以外で割合が高くなっており、小学5年と高校2年で大きく増加している。

※小学2年（H28:39.2→R3:37.3%）、小学5年（37.2→48.9%）、中学2年（43.4→48.8%）、高校2年（56.2→70.2%）

「いじめられた経験」があるか（単一回答）

⇒ 「ある」と「少しある」との回答が、小学2年と小学5年で5割程度、中学2年と高校2年で1～2割を占め、小学生で割合が高くなっている。

平成28年度調査と比較すると小学2年で割合が低くなっている。小学5年以上は大きな増減はない。

※小学2年（H28:62.8→R3:49.8%）、小学5年（48.1→51.6%）、中学2年（21.0→21.6%）、高校2年（13.5→12.6%）

（3）ヤングケアラー、ケアラー（※）の状況

「ヤングケアラー、ケアラー」にあてはまるか（単一回答、R3新規質問、小学2年対象外）

⇒ 「あてはまる」との回答が、小学5年で1.8%（7人）、中学2年で2.0%（8人）、高校2年で3.2%（13人）、青年で5.1%（20人）となっており、本県でもヤングケアラー、ケアラーの存在が判明した。

【参考】ヤングケアラーの実態に関する調査研究結果（令和2年度 国調査結果）

⇒ 「あてはまる」との回答割合：中学2年：5.7%、高校2年：4.1%

「ヤングケアラーが希望するサポート」（複数回答、R3新規質問、小学2年、青年対象外）

⇒ 小学5年で「信頼して見守ってくれる大人がいること」、中学2年と高校2年で「家族の病状が悪化するなど困ったときに相談できる人がいる（場所がある）こと」、「自分の自由になる時間が増えるようなサポートがあること」などの回答が多かった。

※ヤングケアラー：高齢、身体上又は精神上的の障がい又は疾病等により援助を必要とする親族等に対し、無償で介護、看護、日常生活上の世話等（以下「ケア」という）を提供する18歳未満の方

ケアラー：ケアを提供する18歳以上の方

（4）インターネット利用

「一日平均のインターネット利用時間」はどれくらいか（単一回答、小学2年対象外）

⇒ 中学2年以上で「4時間以上」との回答が最も高い（中学2年19.1%、高校2年22.3%、青年28.0%）。全体として、平成28年度調査よりも利用時間の長時間化傾向がある。

「SNSを利用する場合の注意点やその内容」を知っているか（単一回答、R3新規質問、小学2年対象外）

⇒ 小学5年では「SNS自体を知らない」との回答が4割で最も高い。

中学2年と高校2年では「注意点があることを知っており内容もよく知っている」との回答が6～7割ある一方、「注意点があることは知っているが内容はよく知らない」との回答も2割を超えている。

「保護者が行うペアレンタル・コントロール」（複数回答、調査対象は保護者のみ）

⇒ 「インターネットの危険性を教えている（34.2→40.2%）」、「利用できる時間（長さ）を決めている（H28:27.1→R3:38.6%）」、「フィルタリングを設定している（26.2→28.9%）」との回答が多く、平成28年度調査よりも回答割合が高くなっている。

なお、「特にルールはない（15.6→11.7%）」は、平成28年度調査よりも低くなっているが1割程度を占めている。

(5) ひきこもりに係る親和性

「家や自室に閉じこもっていて外に出ない人たちの気持ちが分かるか」(単一回答、調査対象は青年のみ)

⇒ 「あてはまる」との回答が2割弱、「どちらかといえばあてはまる」との回答が3割を占め、平成28年度調査と傾向は同様となっている。

「理由があるなら家や自室に閉じこもるのも仕方がないと思うか」(単一回答、調査対象は青年のみ)

⇒ 「あてはまる」との回答が3割弱、「どちらかといえばあてはまる」との回答が4割を占め、平成28年度調査と傾向は同様となっている。

(6) 不良行為、被害の経験

「インターネット上の掲示板に悪口などの書込みをされた経験」があるか(単一回答、小学2年、小学5年対象外)

⇒ 「ある」との回答が、中学2年と高校2年で1割に満たず少数ではあるが、被害経験の回答が見られる。

青年では「ある(H28:5.0→R3:10.1%)」との回答が平成28年度調査よりも高くなっている。

※被害経験の回答(R3): 中学2年9人、高校2年23人、青年40人

「自分で撮影した下着姿や裸の写真等を人から求められた経験」があるか(単一回答、小学2年、小学5年、青年は対象外)

⇒ 「ある」との回答が、中学2年、高校2年で1割に満たず少数だが、被害経験の回答が見られる。

※被害経験の回答(R3): 中学2年8人、高校2年11人

4 課題、調査結果を踏まえた今後の対応

- 調査結果から、青少年におけるインターネット利用の低年齢・利用時間の長時間化、学校生活におけるいじめなどの問題があらためて明らかになった。
また、ヤングケアラー、ケアラーの問題、SNS上での誹謗中傷、児童ポルノの要求行為(自画撮り被害)等、新たな社会課題が顕在化している状況も見られた。
- これらの課題について、本調査結果等を踏まえ、本県の子ども・若者の育成支援に係る取組方針である「とっとり若者自立応援プラン(H24.3策定)」に反映させ、青少年の健全育成に向けた施策を推進していく(プランは令和4年度が計画終期であり、令和4年度に改訂作業)。
- なお、プランの改訂前でも、調査結果から見えてくる課題については、可能なものから取組を進めていくほか、いじめや不登校をはじめとする児童生徒における課題について、知事と教育委員会の協議の場である総合教育会議で議論を行うなど、課題の解決に向け取り組んでいく。

※報告書は県ホームページへ掲載(URL: <https://www.pref.tottori.lg.jp/303114.htm>)

1 鳥取県青少年育成意識調査の概要

(1) 調査目的

青少年及び成人の意識並びに行動を調査することにより、その実態を的確に把握し、過去に実施した調査結果との時間的変容を解明し、青少年施策の基礎資料を得る。

また、調査結果は、子ども・若者育成支援推進法（平成21年法律第71号）に基づき作成している本県の子ども・若者の育成支援に係る取組方針である「とっとり若者自立応援プラン」の改訂における基礎資料とする。

(2) 調査対象者

小学2年、小学5年、中学2年、高校2年の児童生徒及びその保護者並びに青年（19歳から29歳の者）

【必要となる調査数】

区分	小学2年	小学5年	中学2年	高校2年	保護者	青年
調査数	400人	400人	400人	400人	1,600人	1,700人

※統計上、一定の信頼水準等を満たすために必要となる数を調査数とした。

(3) 調査方法

ア 小学2年、小学5年、中学2年、高校2年の児童生徒及び保護者

無作為抽出した調査対象の児童生徒及び保護者に、学校を通じ、調査票を配布し、回収を行う方法により調査を行った。

イ 青年

無作為抽出した調査対象者に調査票を郵送。調査対象者が調査票を鳥取県に返送する方法又は調査対象者がとっとり電子申請サービス（オンライン）を利用し回答する方法により調査を行った。

(4) 調査基準日

令和3年7月1日（調査期限：令和3年7月31日）

(5) 主な調査内容

- ・家族・家庭、生活：家庭生活、家族への意識、基本的生活習慣の状況
- ・ヤングケアラー、ケアラーの状況：ヤングケアラー、ケアラーへの該当、ケアの内容、ケアの頻度
- ・インターネット利用：インターネットの利用目的、インターネットの利用時間
- ・学校生活、進路・職業観：学校生活、いじめ、希望する職業や仕事の有無
- ・地域との関わり・地域での活動：地域活動への参加状況、地域への居留意向、選挙投票への意識
- ・心の状態：自己肯定感、悩み、悩みの相談先
- ・不良行為・非行等：喫煙、深夜徘徊

※上記の調査内容の内、本概要版には一部を掲載。

(6) 調査票回収数等

区分	調査票配布数 A	調査票回収数 B	回収率 (%) B/A
小学2年	471	450	95.5
小学5年	458	420	91.7
中学2年	435	416	95.6
高校2年	420	413	98.3
保護者	1,784	1,577	88.4
青年	1,681	397	23.6
合計	5,249	3,673	70.0

※小学2年、小学5年、中学2年、高校2年分は、学級単位で調査対象者を抽出しているため、調査票配布数Aは「(2) 調査対象者」の【必要となる調査数】と異なる。青年分の調査票配布数は、調査対象者に不達であった数を除いた数。(1,700-19(不達数)=1,681)

(7) その他（本概要版における表記等）

- ・本文中に示すnは、回答率算出上の調査数である。各選択肢の回答率(%)は、小数点以下第二位を四捨五入しており、単一回答の問では、合計が100%にならない場合がある。
- ・経年比較は平成28年度鳥取県青少年育成意識調査との比較。平成28年度調査の結果は割合のみ表示。

2 集計結果の概要（単純集計）

（1）生活

項目1 スマートフォンや携帯電話、テレビでゲームをする時間を決めているか

（単一回答、調査対象：小2、小5、中2、高2）

「決めている」との回答は、小学生で6割、中学生で3割、高校生で1割未満。

集計結果の概要

小学2年、小学5年は「決めている」が最も高く、中学2年、高校2年は「決めていない」が最も高くなっている。

R3年度	決めている		決めていない		スマホ・携帯ゲーム・テレビ ゲームがないのではない		無回答	
	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数
小学2年 n=450	60.7%	273人	22.0%	99人	16.0%	72人	1.3%	6人
小学5年 n=420	61.0%	256人	32.9%	138人	6.0%	25人	0.2%	1人
中学2年 n=416	35.8%	149人	59.9%	249人	3.8%	16人	0.5%	2人
高校2年 n=413	8.2%	34人	89.8%	371人	1.2%	5人	0.7%	3人

※H28年度データとの比較がない項目は、R3年度の新規項目であるため、R3年度データのみ表示している。（以下同じ。）

項目2 青年が普段自宅でよくしていること

（複数回答、調査対象：青年）

「インターネットを利用する」が7割を超える。前回調査(H28)に比べ、「インターネットを利用する」、「ゲームをする」の割合が増加したほか、「本を読む」の割合が減少している。

集計結果の概要

青年では「インターネットを利用する（76.1%）」が最も高く、次に「テレビを見る（58.2%）」、「ゲームをする（45.1%）」が高くなっている。平成28年度調査と比較すると「インターネットを利用する」、「ゲームをする」の割合が増加している。また、平成28年度調査では、「テレビを見る」が最も高く、次に「インターネット」の順であったが、令和3年度調査では回答割合の高い順番が逆転している。

	R3年度 n=397		H28年度 n=383
	割合	人数	割合
テレビを見る	58.2%	231人	71.3%
ラジオを聴く	4.3%	17人	4.7%
本を読む	19.1%	76人	26.9%
新聞を読む	3.5%	14人	8.9%
ゲームをする	45.1%	179人	35.8%
勉強をする	23.7%	94人	18.0%
仕事をする	8.3%	33人	8.1%
家事・育児をする	32.0%	127人	29.8%
インターネットを利用する	76.1%	302人	65.5%
あてはまるものはない	1.0%	4人	2.6%
無回答	1.3%	5人	0.5%

※H28年度の人数のデータはないため、割合のみ表示している。（以下同じ。）

(2) 学校生活

項目1 学校生活に満足しているか

(単一回答、調査対象：小2、小5、中2、高2、青年)
※青年の間は「卒業した学校又は現在の学校」の生活に対する質問

「満足している」と「ほぼ満足している」との回答が7～9割を占める。

集計結果の概要

「満足している」と「ほぼ満足している」の合計割合は、小学2年で9割、小学5年、中学2年で8割、高校2年で8割弱を占め、年代が上がるにつれ減少している。

		満足している		ほぼ満足している		あまり満足していない		満足していない		無回答	
		割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数
小学2年	R3年度 n=450	68.7%	309人	22.0%	99人	5.3%	24人	1.6%	7人	2.4%	11人
	H28年度 n=447	64.0%	-	25.1%	-	7.6%	-	2.5%	-	0.9%	-
小学5年	R3年度 n=420	48.3%	203人	36.7%	154人	9.0%	38人	4.0%	17人	1.9%	8人
	H28年度 n=468	59.6%	-	29.1%	-	9.4%	-	1.3%	-	0.6%	-
中学2年	R3年度 n=416	41.6%	173人	40.6%	169人	12.3%	51人	3.8%	16人	1.7%	7人
	H28年度 n=468	36.8%	-	43.2%	-	15.2%	-	4.9%	-	0.0%	-
高校2年	R3年度 n=413	33.9%	140人	43.3%	179人	16.0%	66人	6.3%	26人	0.5%	2人
	H28年度 n=438	31.5%	-	47.5%	-	14.6%	-	6.2%	-	0.2%	-
青年	R3年度 n=397	36.8%	146人	40.6%	161人	14.9%	59人	6.8%	27人	1.0%	4人
	H28年度 n=383	44.9%	-	28.5%	-	15.7%	-	8.9%	-	2.1%	-

項目2 登校前に学校へ行きたくないと思った経験

(単一回答、調査対象：小2、小5、中2、高2)

「よくある」と「時々ある」との回答が小中学生で3～4割、高校生で7割を占める。

集計結果の概要

「よくある」と「時々ある」の合計割合は、小学2年で3割、小学5年と中学2年で4割、高校2年で7割を占めている。平成28年度調査と比較すると、「よくある」と「時々ある」の合計割合は、小学2年以外で増加している。

		よくある		時々ある		ほとんどない		全くない		無回答	
		割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数
小学2年	R3年度 n=450	11.3%	51人	26.0%	117人	18.7%	84人	40.9%	184人	3.1%	14人
	H28年度 n=446	15.7%	-	23.5%	-	20.4%	-	39%	-	1.3%	-
小学5年	R3年度 n=420	17.9%	75人	31.0%	130人	26.2%	110人	25.0%	105人	0.0%	0人
	H28年度 n=467	11.1%	-	26.1%	-	31.5%	-	31%	-	0.2%	-
中学2年	R3年度 n=416	19.0%	79人	29.8%	124人	28.4%	118人	22.6%	94人	0.2%	1人
	H28年度 n=468	13.5%	-	29.9%	-	28.8%	-	27.8%	-	0.0%	-
高校2年	R3年度 n=413	28.1%	116人	42.1%	174人	19.4%	80人	10.2%	42人	0.2%	1人
	H28年度 n=438	22.6%	-	33.6%	-	28.8%	-	14.8%	-	0.2%	-

項目3 いじめの経験（被害経験）

（単一回答、調査対象：小2、小5、中2、高2）

「ある」と「少しある」との回答が小学生で5割程度、中高校生で1～2割を占める。

集計結果の概要

「ある」は、小学2年と小学5年で2割弱から2割、中学2年と高校2年では1割に満たない。「少しある」は、小学2年で30.0%、小学5年で27.6%であり、中学2年の14.9%、高校2年の8.0%より高くなっている。

		ある		少しある		ない		無回答	
		割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数
小学2年	R3年度 n=450	19.8%	89人	30.0%	135人	44.2%	199人	6.0%	27人
	H28年度 n=444	30.6%	-	32.2%	-	35.8%	-	1.4%	-
小学5年	R3年度 n=420	24.0%	101人	27.6%	116人	46.0%	193人	2.4%	10人
	H28年度 n=468	19.7%	-	28.4%	-	50.9%	-	1.1%	-
中学2年	R3年度 n=416	6.7%	28人	14.9%	62人	77.6%	323人	0.7%	3人
	H28年度 n=468	4.5%	-	16.5%	-	79.1%	-	0.0%	-
高校2年	R3年度 n=413	4.6%	19人	8.0%	33人	87.2%	360人	0.2%	1人
	H28年度 n=438	4.6%	-	8.9%	-	86.3%	-	0.2%	-

(3) ヤングケアラー、ケアラー¹の状況

項目1 ヤングケアラー、ケアラーにあてはまるか（又は過去にあてはまっていたか）

（単一回答、調査対象：小5、中2、高2、青年）

「あてはまる」との回答が小学5年で1.8%(7人)、中学2年で2.0%(8人)、高校2年で3.2%(13人)、青年で5.1%(20人)。

【参考】ヤングケアラーの実態に関する調査研究結果(令和2年度厚生労働省・文部科学省)
「あてはまる」との回答割合：中学2年：5.7%、高校2年：4.1%

集計結果の概要

ヤングケアラー、ケアラーに「あてはまる」との回答は、次のとおりとなっている。

- ・小学5年：1.8%(7人/382人) ・中学2年：2.0%(8人/410人)
- ・高校2年：3.2%(13人/409人) ・青年：5.1%(20人/393人)

また、小学5年生で44.5%(170人/382人)、中学2年生で31.0%(127人/410人)、高校2年で24.9%(102人/409人)が「分からない」と回答しており、年代が低いほど認知度が低い。

R3年度	あてはまる		あてはまらない		わからない	
	割合	人数	割合	人数	割合	人数
小学5年 n=382	1.8%	7人	53.7%	205人	44.5%	170人
中学2年 n=410	2.0%	8人	67.0%	275人	31.0%	127人
高校2年 n=409	3.2%	13人	71.9%	294人	24.9%	102人
青年 n=393	5.1%	20人	81.9%	322人	13.0%	51人

項目2 ケアによる生活への影響

（複数回答、調査対象：小5、中2、高2）

小学5年で「勉強の時間が十分に取れない」、中学2年、高校2年で「ストレスを感じている」との回答があった。各年代で「特に影響はない」との回答もみられた。

集計結果の概要

各年代で回答が高い項目は、次のとおりとなっている。

- ・小学5年：「勉強の時間が十分に取れない(42.9%)」、「特に影響はない(42.9%)」
- ・中学2年：「ストレスを感じている(37.5%)」、「体がだるい(37.5%)」、「特に影響はない(37.5%)」
- ・高校2年：「特に影響はない(38.5%)」、「ストレスを感じている(30.8%)」

R3年度	小学5年 n=7		中学2年 n=8		高校2年 n=13	
	割合	人数	割合	人数	割合	人数
学校を休みがちになっている	28.6%	2人	12.5%	1人	7.7%	1人
学校への遅刻が多い	28.6%	2人	12.5%	1人	0.0%	0人
クラブ、部活ができない	14.3%	1人	0.0%	0人	15.4%	2人
勉強の時間が十分に取れない	42.9%	3人	25.0%	2人	15.4%	2人
授業に集中できない	14.3%	1人	25.0%	2人	0.0%	0人
成績が落ちた	-	-	12.5%	1人	7.7%	1人
友人と遊ぶことができない	14.3%	1人	25.0%	2人	23.1%	3人
周囲のひとと会話や話題が合わない	0.0%	0人	12.5%	1人	15.4%	2人
ケアについて話せる人がいなくて、孤独を感じる	0.0%	0人	0.0%	0人	7.7%	1人
ストレスを感じている	-	-	37.5%	3人	30.8%	4人
睡眠不足	28.6%	2人	12.5%	1人	7.7%	1人
しっかり食事ができない	14.3%	1人	0.0%	0人	0.0%	0人
体がだるい	0.0%	0人	37.5%	3人	7.7%	1人
自分の時間が取れない	14.3%	1人	25.0%	2人	23.1%	3人
進路についてしっかり考える余裕がない	-	-	0.0%	0人	0.0%	0人
受験の準備ができない	-	-	0.0%	0人	7.7%	1人
アルバイトができない	-	-	-	-	0.0%	0人
学校の勉強が分からない	14.3%	1人	-	-	-	-
体の具合が良くない	0.0%	0人	-	-	-	-
特に影響はない	42.9%	3人	37.5%	3人	38.5%	5人

¹ ヤングケアラー：高齢、身体上又は精神上の障がい又は疾病等により援助を必要とする親族、友人、その他の身近な人に対して、無償で介護、看護、日常生活上の世話その他の援助（以下「ケア」という。）を提供する18歳未満の方。ケアラー：ケアを提供する18歳以上の方。

項目3 ヤングケアラーが希望するサポート

(複数回答、調査対象：小5、中2、高2)

小学5年で「信頼して見守ってくれる大人がいること」、中学2年、高校2年で「家族の病状が悪化するなど困ったときに相談できる人がいる(場所がある)こと」、「自分の自由になる時間が増えるようなサポートがあること」などの回答があった。

集計結果の概要

各年代で回答が高い項目は、次のとおりとなっている。

- ・小学5年：「信頼して見守ってくれる大人がいること (42.9%)」
- ・中学2年：「家族の病状が悪化するなど困ったときに相談できる人がいる(場所がある)こと (37.5%)」、「学校で宿題や勉強をサポートしてくれること (37.5%)」、「自分の自由になる時間が増えるようなサポートがあること (37.5%)」
- ・高校2年：「特になし (38.5%)」、「家族の病状が悪化するなど困ったときに相談できる人がいる(場所がある)こと (30.8%)」

R3年度	小学5年 n=7		中学2年 n=8		高校2年 n=13	
	割合	人数	割合	人数	割合	人数
家族の病状が悪化するなど、困った時に相談できる人がいる(場所がある)こと	0.0%	0人	37.5%	3人	30.8%	4人
家族のケアをしている他のヤングケアラーと話し合えること	-	-	12.5%	1人	15.4%	2人
学校で宿題や勉強をサポートしてくれること	0.0%	0人	37.5%	3人	7.7%	1人
自分がケアしている相手の病気や障がいについて分かりやすく説明してもらえること	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人
福祉サービスに関する情報が分かりやすく得られること	-	-	0.0%	0人	0.0%	0人
福祉サービスの人に会って話をすることができること	-	-	0.0%	0人	0.0%	0人
自分の代わりに家事やケアをしてくれる人がいること	0.0%	0人	25.0%	2人	15.4%	2人
信頼して見守ってくれる大人がいること	42.9%	3人	25.0%	2人	7.7%	1人
学校の先生や他の生徒がヤングケアラーについて知り、理解を深める機会があること	0.0%	0人	12.5%	1人	7.7%	1人
将来のことを相談できる場があること	0.0%	0人	12.5%	1人	7.7%	1人
自分の自由になる時間が増えるようなサポート	28.6%	2人	37.5%	3人	23.1%	3人
その他	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人
特になし	28.6%	2人	12.5%	1人	38.5%	5人

項目4 ケアラーに必要な支援

(複数回答、調査対象：青年)

青年で「ケアラーに役立つ情報の提供」、「親や家族が亡くなった後の被介護者のケアと生活の継続」などの回答があった。

集計結果の概要

青年では、「ケアラーに役立つ情報の提供 (38.9%)」が最も高く、次に「親や家族がなくなった後の被介護者のケアと生活の継続 (27.8%)」が高くなっている。

	青年 n=20	
	割合	人数
電話や訪問による相談体制の整備	11.1%	2人
ケアラーに役立つ情報の提供	38.9%	7人
気軽に休息や睡眠がとれる機会の確保	11.1%	2人
気軽に情報交換できる環境の紹介・提供	16.7%	3人
勤務しやすい柔軟な働き方	16.7%	3人
就労及び再就職への支援	5.6%	1人
24時間対応の在宅サービスの提供	5.6%	1人
入居施設等の生活の場の整備・充実	16.7%	3人
災害時も含め、緊急時に利用できてケアをしている相手の生活を変えないサービス	11.1%	2人
親や家族が亡くなった後の被介護者のケアと生活の継続	27.8%	5人
社会的なケアラー支援への理解	11.1%	2人
専門職や行政職員のケアラー支援への理解	5.6%	1人
経済的支援	16.7%	3人
ケアラーの健康管理への支援	16.7%	3人
その他	11.1%	2人

項目5 ヤングケアラー、ケアラーに関する意見

(自由回答、調査対象：小5、中2、高2、青年)

「ケアが負担になっていることや経済的な負担が生じていること」などの回答があった。

	回答内容 (概要)
小学5年	(回答者なし)
中学2年	ケアが大変である。
高校2年	問題の解決には、職場の理解が必要。
青年	<p>ケアの実施について、他の家族からの協力が十分でない。老人ホームの利用は、金銭的に難しい。</p> <p>障がい者入居施設の利用について、県や市町村などから経済支援があるとありがたい。自分の親が対象者をケアしているが、親が面倒を見られなくなった後、ケアラーになるのは、対象者の兄弟になるので負担を少しでも減らしてほしい。</p> <p>医療費や通院費を無償化してほしい。</p> <p>自分の生活もあり、ケアを継続するのが難しい。</p>

(4) インターネット利用

項目1 インターネットを利用している時間（一日の平均時間）

（単一回答、調査対象：小5、中2、高2、青年）

中学2年以上の年代で「4時間以上」との回答が最も高い。

集計結果の概要

各年代で回答が最も高い項目は、次のとおりとなっている。

- ・小学5年：「1時間以上2時間未満（27.3%）」
- ・中学2年：「2時間以上3時間未満（19.1%）」、「4時間以上（19.1%）」
- ・高校2年：「4時間以上（22.3%）」
- ・青年：「4時間以上（28.0%）」

		30分よりも少ない		30分以上～1時間未満		1時間以上～2時間未満		2時間以上～3時間未満		3時間以上～4時間未満		4時間以上		無回答	
		割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数
小学5年	R3年度 n=385	7.5%	29人	18.2%	70人	27.3%	105人	13.5%	52人	7.5%	29人	8.8%	34人	17.1%	66人
	H28年度 n=385	26.8%	-	32.7%	-	20.3%	-	7.3%	-	4.4%	-	6.5%	-	2.1%	-
中学2年	R3年度 n=398	1.3%	5人	8.8%	35人	17.1%	68人	19.1%	76人	11.1%	44人	19.1%	76人	23.6%	94人
	H28年度 n=437	14.0%	-	17.8%	-	27.2%	-	14.9%	-	10.5%	-	15.3%	-	0.2%	-
高校2年	R3年度 n=408	0.5%	2人	1.7%	7人	12.0%	49人	17.6%	72人	9.8%	40人	22.3%	91人	36.0%	147人
	H28年度 n=435	2.3%	-	9.0%	-	29.4%	-	20.7%	-	13.8%	-	24.8%	-	0.0%	-
青年	R3年度 n=396	0.0%	0人	4.3%	17人	14.4%	57人	20.5%	81人	10.9%	43人	28.0%	111人	2.0%	87人
	H28年度 n=377	3.7%	-	19.4%	-	26.3%	-	22.8%	-	12.5%	-	15.1%	-	0.3%	-

項目2 SNS²を利用する場合の注意点やその内容を知っているか

（単一回答、調査対象：小5、中2、高2）

中高生で、「注意点があることを知っており内容もよく知っている」との回答が6～7割ある一方、「注意点があることは知っているが内容はよく知らない」との回答も2割を超える。

集計結果の概要

「SNS自体を知らない」が小学5年で41.0%、「注意点があることを知っており内容もよく知っている」が中学2年で63.5%、高校2年で71.2%と最も高くなっている。

また、「注意点があることは知っているが内容はよく知らない」は小学5年で18.8%、中学2年で24.0%、高校2年で26.2%であり、中学2年と高校2年では2番目に高くなっている。

R3年度	注意点があることを知っており内容もよく知っている		注意点があることは知っているが内容はよく知らない		注意点があることを知らない		SNS自体をよく知らない		無回答	
	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数
小学5年 n=420	28.3%	119人	18.8%	79人	4.5%	19人	41.0%	172人	7.4%	31人
中学2年 n=416	63.5%	264人	24.0%	100人	1.7%	7人	10.8%	45人	0.0%	0人
高校2年 n=413	71.2%	294人	26.2%	108人	0.7%	3人	1.2%	5人	0.7%	3人

² SNS：ソーシャルネットワーキングサービス（Social Networking Service）の略で、登録された利用者同士が交流できるWebサイト（ホームページのサービスを提供しているシステム等）の会員制サービス。

項目3 保護者が行うペアレンタル・コントロール³の状況

(複数回答、調査対象：保護者)

「インターネットの危険性を教えている」、「インターネットを利用できる時間(長さ)を決めている」、「フィルタリング⁴を設定している」と回答した保護者が多く、前回調査(H28)よりも回答割合が高い。

集計結果の概要

保護者のペアレンタル・コントロールの状況として、保護者全体で、「インターネットの危険性を教えている(40.2%)」と回答した保護者の割合が最も高く、次いで「利用できる時間(長さ)を決めている(38.6%)」、「フィルタリングを設定している(28.9%)」の割合が高かった。

平成28年度調査と比較すると、「インターネットは利用させない(5.9%)」と回答した保護者の割合が10.3ポイント減少し、「特にルールはない(11.7%)」と回答した保護者の割合が3.9ポイント減少している。

	R3年度										H28年度
	小学2年の保護者 n=412		小学5年の保護者 n=383		中学2年の保護者 n=383		高校2年の保護者 n=376		保護者全体 n=1,554		保護者全体 n=1,683
	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
インターネットは利用させない	15.9%	67人	4.4%	17人	1.8%	7人	1.8%	7人	5.9%	93人	16.2%
利用できる時間(長さ)を決めている	52.7%	222人	55.2%	214人	35.7%	139人	36.4%	138人	38.6%	608人	27.1%
利用できる時間帯を決めている	20.4%	86人	29.1%	113人	32.9%	128人	34.0%	129人	23.4%	369人	14.1%
利用できる場所を決めている	27.8%	117人	31.2%	121人	32.9%	128人	33.5%	127人	25.9%	408人	22.2%
保護者と一緒に利用している	27.1%	114人	13.9%	54人	9.0%	35人	9.2%	35人	13.8%	218人	17.8%
フィルタリングを設定している	20.4%	86人	29.6%	115人	37.0%	144人	38.0%	144人	28.9%	455人	26.2%
インターネットの危険性を教えている	26.8%	113人	43.6%	169人	48.3%	188人	49.6%	188人	40.2%	634人	34.2%
特にルールはない	4.8%	20人	4.9%	19人	10.3%	40人	10.8%	41人	11.7%	184人	15.6%
その他	2.6%	11人	2.3%	9人	2.3%	9人	2.6%	10人	2.7%	42人	3.3%
無回答	0.7%	3人	1.5%	6人	0.5%	2人	0.5%	2人	0.9%	14人	1.1%

³ ペアレンタル・コントロール：子どものスマートフォンやタブレット等の利用状況を、保護者が把握したり、安全管理を行ったりする仕組み。

⁴ フィルタリング：インターネット上の有害情報を画面に表示しないように制限する機能。

(5) ひきこもりに係る親和性

項目1 家や自室に閉じこもっていて外に出ない人たちの気持ちが分かるか

(単一回答、調査対象：青年)

青年で、「あてはまる」との回答が2割弱、「どちらかといえばあてはまる」との回答が3割を占める。

集計結果の概要

「あてはまる」、「どちらかといえばあてはまる」を合わせると約半数を占め、平成28年度調査から大きな変動はみられなかった。

		あてはまる		どちらかといえばあてはまる		どちらかといえばあてはまらない		あてはまらない		無回答	
		割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数
青年	R3年度 n=397	18.6%	74人	32.2%	128人	29.5%	117人	19.1%	76人	0.5%	2人
	H28年度 n=382	20.7%	-	30.4%	-	26.2%	-	22%	-	0.8%	-

項目2 理由があるなら家や自室に閉じこもるのも仕方がないと思うか

(単一回答、調査対象：青年)

青年で、「あてはまる」との回答が3割弱、「どちらかといえばあてはまる」との回答が4割を占める。

集計結果の概要

「あてはまる」、「どちらかといえばあてはまる」を合わせた割合は全体の4分の3になり、平成28年度調査と比較するとやや増加した。

		あてはまる		どちらかといえばあてはまる		どちらかといえばあてはまらない		あてはまらない		無回答	
		割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数
青年	R3年度 n=397	29.7%	118人	45.6%	181人	17.1%	68人	7.3%	29人	0.3%	1人
	H28年度 n=382	25.8%	-	44.9%	-	19.6%	-	8.9%	-	0.8%	-

(6) 不良行為、被害の経験

項目1 SNS、掲示板などインターネット上で他人の悪口などの書き込みをした経験

(単一回答、調査対象：中2、高2、青年)

「時々ある」と「1～2度ある」との回答は1割に満たないが、加害経験の回答がみられる。
(加害経験の回答：中学2年：5人、高校2年：17人、青年：23人)

集計結果の概要

全ての年代で9割以上が「ない」と回答している。「時々ある」と「1～2度ある」を合わせた割合は、青年が5.8%で最も高い。

		時々ある		1～2度ある		ない		無回答	
		割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数
中学2年	R3年度 n=416	0.7%	3人	0.5%	2人	98.3%	409人	0.5%	2人
	H28年度 n=468	1.7%	-	2.4%	-	95.9%	-	0.0%	-
高校2年	R3年度 n=413	0.7%	3人	3.4%	14人	95.6%	395人	0.2%	1人
	H28年度 n=438	1.6%	-	4.3%	-	93.8%	-	0.2%	-
青年	R3年度 n=397	0.3%	1人	5.5%	22人	93.7%	372人	0.5%	2人
	H28年度 n=383	0.8%	-	4.7%	-	94.0%	-	0.5%	-

項目2 SNS、掲示板などインターネット上で自分の悪口などの書き込みをされた経験

(単一回答、調査対象：中2、高2、青年)

「ある」との回答は中高生で1割に満たないが、被害経験の回答がみられる。
「ある」との回答は、前回調査(H28)に比べ、青年で増加割合が大きくなっている。
(被害経験の回答：中学2年：9人、高校2年：23人、青年：40人)

集計結果の概要

全ての年代で約9割が「ない」と回答している。「ある」と回答した割合が最も高かったのは青年(10.1%)であった。平成28年度調査と比較すると、高校2年、青年で「ある」の割合が増加している。

		ある		ない		無回答	
		割合	人数	割合	人数	割合	人数
中学2年	R3年度 n=416	2.2%	9人	97.4%	405人	0.5%	2人
	H28年度 n=468	2.8%	-	97.2%	-	0.0%	-
高校2年	R3年度 n=413	5.6%	23人	94.2%	389人	0.2%	1人
	H28年度 n=438	4.1%	-	95.7%	-	0.2%	-
青年	R3年度 n=397	10.1%	40人	89.4%	355人	0.5%	2人
	H28年度 n=383	5.0%	-	94.3%	-	0.8%	-

項目3 誰かに下着姿や裸の写真等の画像を求めた経験

(単一回答、調査対象：中2、高2)

「ある」との回答は少ないが、加害経験の回答がみられる。
(加害経験の回答：中学2年：3人、高校2年：5人)

集計結果の概要

中学2年、高校2年で9割以上の回答が「ない」であった。

R3年度	ある		ない		無回答	
	割合	人数	割合	人数	割合	人数
中学2年 n=416	0.7%	3人	97.6%	406人	1.7%	7人
高校2年 n=413	1.2%	5人	97.8%	404人	1.0%	4人

項目4 自分で撮影した下着姿や裸の写真等を人から求められた経験

(単一回答、調査対象：中2、高2)

「ある」との回答は少ないが、被害経験の回答がみられる。
(被害経験の回答：中学2年：8人、高校2年：11人)

集計結果の概要

「ある」と回答した割合は中学2年で1.9%、高校2年で2.7%であった。

R3年度	ある		ない		無回答	
	割合	人数	割合	人数	割合	人数
中学2年 n=416	1.9%	8人	97.6%	406人	0.5%	2人
高校2年 n=413	2.7%	11人	96.9%	400人	0.5%	2人

3 集計結果の概要（クロス集計）

<クロス集計について>

青少年に対する質問について、2つの質問をかけあわせ、その結果を細分化、絞込みをするクロス集計を行った。

※集計に際しては、各質問における同区分の回答を集約した上で、細分化、絞込みを行った。

(例)「肯定的な回答」を集約：「よくある」と「どちらかといえばある」を集約 ⇒ 「ある」

「否定的な回答」を集約：「ほとんどない」と「ない」を集約 ⇒ 「ない」

(1) 「自分には良いところがあると思う（自己肯定感関連）」に係るクロス集計

【参考】「質問：自分には良いところがあると思うか」に係る単純集計結果

R3年度	ある		どちらかといえば、 ある		どちらかといえば、 ない		ない		無回答	
	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数
小学2年 n=450	49.6%	223人	37.8%	170人	8.0%	36人	3.6%	16人	1.1%	5人
小学5年 n=420	45.2%	190人	37.4%	157人	10.7%	45人	5.7%	24人	1.0%	4人
中学2年 n=416	32.7%	136人	44.5%	185人	12.7%	53人	9.4%	39人	0.7%	3人
高校2年 n=413	26.4%	109人	48.9%	202人	16.9%	70人	7.0%	29人	0.7%	3人

項目1 「基本的生活習慣の状況」による細分化

(自己肯定感関連 × 基本的生活習慣の状況)

(調査対象：小2、小5、中2、高2)

「自分には良いところがあると思うか」について、「ある」と回答した者は、基本的生活習慣が定着しているとの回答が多くみられた。

集計結果の概要

「あなたは、自分には良いところがあると思いますか」について、「ある」と回答した者は、「ない」と回答した者に比べ、次の傾向がみられた。

- ・「朝起きる時、自分一人で起きること」、「身の回りや部屋の片づけをすること」、「家の手伝いをすること」⇒ 「できる」又は「する」と回答した割合が全ての年代で多くみられた。

	朝起きる時、自分一人で起きる											
	小学2年			小学5年			中学2年			高校2年		
自己肯定感	できる	できない	無回答	できる	できない	無回答	できる	できない	無回答	できる	できない	無回答
ある	286人	104人	3人	275人	68人	4人	257人	64人	0人	265人	45人	1人
	72.8%	26.5%	0.8%	79.3%	19.6%	1.2%	80.1%	19.9%	0.0%	85.2%	14.5%	0.3%
ない	33人	18人	1人	45人	23人	1人	61人	31人	0人	74人	25人	0人
	63.5%	34.6%	1.9%	65.2%	33.3%	1.4%	66.3%	33.7%	0.0%	74.7%	25.3%	0.0%
割合差 (ポイント)	9.3	△ 8.1		14.1	△ 13.7		13.8	△ 13.8		10.5	△ 10.8	

	身の回りや部屋の片づけをすること											
	小学2年			小学5年			中学2年			高校2年		
自己肯定感	する	しない	無回答	する	しない	無回答	する	しない	無回答	する	しない	無回答
ある	318人	70人	5人	253人	93人	1人	247人	73人	1人	260人	50人	1人
	80.9%	17.8%	1.3%	72.9%	26.8%	0.3%	76.9%	22.7%	0.3%	83.6%	16.1%	0.3%
ない	36人	14人	2人	41人	27人	1人	68人	23人	1人	65人	34人	0人
	69.2%	26.9%	3.8%	59.4%	39.1%	1.4%	73.9%	25.0%	1.1%	65.7%	34.3%	0.0%
割合差 (ポイント)	11.7	△ 9.1		13.5	△ 12.3		3.0	△ 2.3		17.9	△ 18.2	

	家の手伝いをすること											
	小学2年			小学5年			中学2年			高校2年		
自己肯定感	する	しない	無回答	する	しない	無回答	する	しない	無回答	する	しない	無回答
ある	296人	92人	5人	274人	71人	2人	234人	87人	0人	224人	86人	1人
	75.3%	23.4%	1.3%	79.0%	20.5%	0.6%	72.9%	27.1%	0.0%	72.0%	27.7%	0.3%
ない	33人	18人	1人	50人	19人	0人	52人	38人	2人	66人	33人	0人
	63.5%	34.6%	1.9%	72.5%	27.5%	0.0%	56.5%	41.3%	2.2%	66.7%	33.3%	0.0%
割合差 (ポイント)	11.8	△ 11.2		6.5	△ 7.0		16.4	△ 14.2		5.3	△ 5.6	

項目2 「家族・家庭」、「学校生活」による細分化 (自己肯定感関連 × 「家族・家庭」、「学校生活」)

(調査対象：小2、小5、中2、高2)

「自分には良いところがあると思うか」について、「ある」と回答した者は、「家庭生活」、「学校生活」に満足しているとの回答が多くみられた。

集計結果の概要

「あなたは、自分には良いところがあると思いますか」について、「ある」と回答した者は、「ない」と回答した者に比べ、次の傾向がみられた。

- ・「家庭生活（満足度）」⇒「満足」と回答した割合が、全ての年代で多くみられた。
- ・「学校生活（満足度）」⇒「満足」と回答した割合が、全ての年代で多くみられた。

	家庭生活(満足度)											
	小学2年			小学5年			中学2年			高校2年		
自己肯定感	満足	不満足	無回答	満足	不満足	無回答	満足	不満足	無回答	満足	不満足	無回答
ある	364人	22人	7人	326人	20人	1人	288人	31人	2人	286人	25人	0人
	92.6%	5.6%	1.8%	93.9%	5.8%	0.3%	89.7%	9.7%	0.6%	92.0%	8.0%	0.0%
ない	44人	7人	1人	57人	10人	2人	66人	26人	0人	70人	28人	1人
	84.6%	13.5%	1.9%	82.6%	14.5%	2.9%	71.7%	28.3%	0.0%	70.7%	28.3%	1.0%
割合差(ポイント)	8.0	△ 7.9		11.3	△ 8.7		18.0	△ 18.6		21.3	△ 20.3	

	学校生活(満足度)											
	小学2年			小学5年			中学2年			高校2年		
自己肯定感	満足	不満足	無回答	満足	不満足	無回答	満足	不満足	無回答	満足	不満足	無回答
ある	364人	19人	10人	315人	26人	6人	280人	37人	4人	259人	51人	1人
	92.6%	4.8%	2.5%	90.8%	7.5%	1.7%	87.2%	11.5%	1.2%	83.3%	16.4%	0.3%
ない	40人	11人	1人	40人	27人	2人	59人	30人	3人	58人	41人	0人
	76.9%	21.2%	1.9%	58.0%	39.1%	2.9%	64.1%	32.6%	3.3%	58.6%	41.4%	0.0%
割合差(ポイント)	15.7	△ 16.4		32.8	△ 31.6		23.1	△ 21.1		24.7	△ 25.0	

(2) 「青年の体験的活動の経験」に係るクロス集計

項目1 「自分には良いところがあると思う」による細分化 (青年の体験的活動の経験 × 自己肯定感関連)

(調査対象：青年)

体験的活動(海、山、湖、川での遊び、大勢の友達と集団での遊び)の経験が多いと回答した者は、「自分には良いところがあると思うか」について、「ある」との回答が多くみられた。

集計結果の概要

○「青年の体験的活動の経験」(海、山、湖、川で遊んだこと)について、「ある」と回答した者は、「ない」と回答した者に比べ、次の傾向がみられた。

- ・「あなたは、自分には良いところがあると思いますか」⇒「ある」と回答した割合が多くみられた。

○「青年の体験的活動の経験」(大勢の友達と集団で遊んだこと)について、「ある」と回答した者は、「ない」と回答した者に比べ、次の傾向がみられた。

- ・「あなたは、自分には良いところがあると思いますか」⇒「ある」と回答した割合が多くみられた。

	自己肯定感		
	ある	ない	無回答
海、山、湖、川で遊んだこと			
ある	260人	52人	0人
	83.3%	16.7%	0.0%
ない	58人	22人	2人
	70.7%	26.8%	2.4%
割合差(ポイント)	12.6	△ 10.1	

	自己肯定感		
	ある	ない	無回答
大勢の友達と集団で遊んだこと			
ある	267人	45人	1人
	85.3%	14.4%	0.3%
ない	51人	29人	1人
	63.0%	35.8%	1.2%
割合差(ポイント)	22.3	△ 21.4	

(3) 「学校へ行きたくないと思った経験」に係るクロス集計

項目1 「心の状態」による細分化 (学校へ行きたくないと思った経験 × 心の状態)

(調査対象(悩み):小2、小5、中2、高2)
(調査対象(自死を考えた経験):中2、高2)

「学校へ行きたくないと思ったこと」で「ある」と回答した者は、「悩みや心配なことがある」、「死にたいと思ったことがある」との回答が多くみられた。

集計結果の概要

「学校へ行きたくないと思ったこと」について、「ある」と回答した者は、「ない」と回答した者に比べ、次の傾向がみられた。

- ・「悩み」、「自死を考えた経験(死にたいと思ったことがある)」
⇒「ある」と回答した割合が全ての年代で多くみられた。

	悩み											
	小学2年			小学5年			中学2年			高校2年		
学校へ行きたくないと思った経験	ある	ない	無回答	ある	ない	無回答	ある	ない	無回答	ある	ない	無回答
ある	71人 42.3%	97人 57.7%	0人 0.0%	100人 48.8%	103人 50.2%	2人 1.0%	119人 58.6%	83人 40.9%	1人 0.5%	190人 65.5%	99人 34.1%	1人 0.3%
ない	69人 25.7%	193人 72.0%	6人 2.2%	56人 26.0%	159人 74.0%	0人 0.0%	87人 41.0%	125人 59.0%	0人 0.0%	51人 41.8%	71人 58.2%	0人 0.0%
割合差(ポイント)	16.6	△ 14.3		22.8	△ 23.8		17.6	△ 18.1		23.7	△ 24.1	

	自死を考えた経験					
	中学2年			高校2年		
学校へ行きたくないと思った経験	ある	ない	無回答	ある	ない	無回答
ある	97人 47.8%	103人 50.7%	3人 1.5%	117人 40.3%	171人 59.0%	2人 0.7%
ない	43人 20.3%	169人 79.7%	0人 0.0%	14人 11.5%	107人 87.7%	1人 0.8%
割合差(ポイント)	27.5	△ 29.0		28.8	△ 28.7	

項目2 「家族・家庭」、「学校生活」による細分化 (学校に行きたくないと思った経験 × 「家庭・家族」、「学校生活」)

(調査対象：小2、小5、中2、高2)

「学校へ行きたくないと思ったこと」で「ある」と回答した者は、「家庭生活」、「学校生活」に満足しているとの回答が少ない傾向がみられた。

集計結果の概要

「学校へ行きたくないと思ったこと」について、「ある」と回答した者は、「ない」と回答した者に比べ、次の傾向がみられた。

- ・「家庭生活（満足度）」
⇒「満足」と回答した割合が全ての年代で少ない傾向がみられた。特に小学5年で、その差が△11.4ポイントと大きくなっている。
- ・「学校生活（満足度）」
⇒「満足」と回答した割合が全ての年代で少ない傾向がみられた。特に中学2年、高校2年では、その差が△20ポイント以上と大きくなっている。

	家庭生活(満足度)											
	小学2年			小学5年			中学2年			高校2年		
学校へ行きたくないと思った経験	満足	不満足	無回答	満足	不満足	無回答	満足	不満足	無回答	満足	不満足	無回答
ある	153人	14人	1人	177人	25人	3人	167人	35人	1人	246人	43人	1人
	91.1%	8.3%	0.6%	86.3%	12.2%	1.5%	82.3%	17.2%	0.5%	84.8%	14.8%	0.3%
ない	249人	14人	5人	210人	5人	0人	189人	23人	0人	112人	10人	0人
	92.9%	5.2%	1.9%	97.7%	2.3%	0.0%	89.2%	10.8%	0.0%	91.8%	8.2%	0.0%
割合差(ポイント)	△ 1.8	3.1		△ 11.4	9.9		△ 6.9	6.4		△ 7.0	6.6	

	学校生活(満足度)											
	小学2年			小学5年			中学2年			高校2年		
学校へ行きたくないと思った経験	満足	不満足	無回答	満足	不満足	無回答	満足	不満足	無回答	満足	不満足	無回答
ある	146人	21人	1人	154人	48人	3人	144人	56人	3人	202人	87人	1人
	86.9%	12.5%	0.6%	75.1%	23.4%	1.5%	70.9%	27.6%	1.5%	69.7%	30.0%	0.3%
ない	257人	9人	2人	203人	7人	5人	198人	11人	3人	117人	5人	0人
	95.9%	3.4%	0.7%	94.4%	3.3%	2.3%	93.4%	5.2%	1.4%	95.9%	4.1%	0.0%
割合差(ポイント)	△ 9.0	9.1		△ 19.3	20.1		△ 22.5	22.4		△ 26.2	25.9	

(4) 「いじめの経験（被害経験）」に係るクロス集計

項目1 「心の状態」による細分化 (いじめの経験（被害経験） × 心の状態)

(調査対象（悩み）：小2、小5、中2、高2)
(調査対象（自死を考えた経験）：中2、高2)

「いじめられた経験がある」と回答した者は、「自分には良いところがあると思うか」について、「ある」との回答が少なく、「悩みや心配なことがある」、「死にたいと思ったことがある」との回答が多くみられた。

集計結果の概要

「いじめの経験（被害経験）」について、「ある」と回答した者は、「ない」と回答した者に比べ、次の傾向がみられた。

- ・「自己肯定感（自分には良いところがあると思いますか）」
⇒ 「ある」と回答した割合が全ての年代で少ない傾向がみられた。小学2年では大きな差はないが、その他の年代では、△10ポイント以上の差が生じている。
- ・「悩み」、「自死を考えた経験（死にたいと思ったことがある）」
⇒ 「ある」と回答した割合が全ての年代で多くみられた。

	自己肯定感											
	小学2年			小学5年			中学2年			高校2年		
いじめ (被害経験)	ある	ない	無回答	ある	ない	無回答	ある	ない	無回答	ある	ない	無回答
ある	196人	27人	1人	168人	46人	3人	60人	29人	1人	34人	18人	0人
	87.5%	12.1%	0.4%	77.4%	21.2%	1.4%	66.7%	32.2%	1.1%	65.4%	34.6%	0.0%
ない	176人	20人	3人	172人	20人	1人	259人	62人	2人	277人	81人	2人
	88.4%	10.1%	1.5%	89.1%	10.4%	0.5%	80.2%	19.2%	0.6%	76.9%	22.5%	0.6%
割合差 (ポイント)	△ 0.9	2.0		△ 11.7	10.8		△ 13.5	13.0		△ 11.5	12.1	
	悩み											
	小学2年			小学5年			中学2年			高校2年		
いじめ (被害経験)	ある	ない	無回答	ある	ない	無回答	ある	ない	無回答	ある	ない	無回答
ある	94人	128人	2人	102人	114人	1人	61人	29人	0人	40人	12人	0人
	42.0%	57.1%	0.9%	47.0%	52.5%	0.5%	67.8%	32.2%	0.0%	76.9%	23.1%	0.0%
ない	46人	151人	2人	47人	145人	1人	144人	178人	1人	201人	158人	1人
	23.1%	75.9%	1.0%	24.4%	75.1%	0.5%	44.6%	55.1%	0.3%	55.8%	43.9%	0.3%
割合差 (ポイント)	18.9	△ 18.8		22.6	△ 22.6		23.2	△ 22.9		21.1	△ 20.8	

	自死を考えた経験					
	中学2年			高校2年		
いじめ (被害経験)	ある	ない	無回答	ある	ない	無回答
ある	56人	33人	1人	36人	16人	0人
	62.2%	36.7%	1.1%	69.2%	30.8%	0.0%
ない	83人	240人	0人	95人	262人	3人
	25.7%	74.3%	0.0%	26.4%	72.8%	0.8%
割合差 (ポイント)	36.5	△ 37.6		42.8	△ 42.0	

項目2 「家族・家庭」、「学校生活」による細分化 (いじめの経験(被害経験) × 「家庭・家族」、「学校生活」)

(調査対象: 小2、小5、中2、高2)

「いじめられた経験がある」と回答した者は、「家庭生活」、「学校生活」に満足しているとの回答が小学2年以外の学年で少なく、「学校へ行きたくないと思ったことがある」との回答が全ての学年で多くみられた。

集計結果の概要

「いじめられたこと」について、「ある」と回答した者は、「ない」と回答した者に比べ、次の傾向がみられた。

- ・「家庭生活(満足度)」
⇒「満足」と回答した割合が小学2年以外で少ない傾向がみられた。特に高校2年で、その差が△15.8ポイントと大きくなっている。
- ・「学校生活(満足度)」
⇒「満足」と回答した割合が小学2年以外で低く、その差が小学5年で△13.4ポイント、高校2年で△27.0ポイントと大きくなっている。
- ・「学校へ行きたくないと思った経験」
⇒「ある」と回答した割合が全ての年代で高く、その差が小学5年で20.8ポイント、中学2年で17.6ポイント、高校2年で18.4ポイントと差が大きくなっている。

	家庭生活(満足度)											
	小学2年			小学5年			中学2年			高校2年		
いじめ(被害経験)	満足	不満足	無回答	満足	不満足	無回答	満足	不満足	無回答	満足	不満足	無回答
ある	206人	18人	0人	198人	18人	1人	72人	17人	1人	38人	14人	0人
	92.0%	8.0%	0.0%	91.2%	8.3%	0.5%	80.0%	18.9%	1.1%	73.1%	26.9%	0.0%
ない	183人	11人	5人	179人	12人	2人	281人	41人	1人	320人	39人	1人
	92.0%	5.5%	2.5%	92.7%	6.2%	1.0%	87.0%	12.7%	0.3%	88.9%	10.8%	0.3%
割合差(ポイント)	0.0	2.5		△ 1.5	2.1		△ 7.0	6.2		△ 15.8	16.1	

	学校生活(満足度)											
	小学2年			小学5年			中学2年			高校2年		
いじめ(被害経験)	満足	不満足	無回答	満足	不満足	無回答	満足	不満足	無回答	満足	不満足	無回答
ある	204人	14人	6人	170人	45人	2人	67人	21人	2人	28人	23人	1人
	91.1%	6.3%	2.7%	78.3%	20.7%	0.9%	74.4%	23.3%	2.2%	53.8%	44.2%	1.9%
ない	180人	16人	3人	177人	10人	6人	272人	46人	5人	291人	69人	0人
	90.5%	8.0%	1.5%	91.7%	5.2%	3.1%	84.2%	14.2%	1.5%	80.8%	19.2%	0.0%
割合差(ポイント)	0.6	△ 1.7		△ 13.4	15.5		△ 9.8	9.1		△ 27.0	25.0	

	学校へ行きたくないと思った経験											
	小学2年			小学5年			中学2年			高校2年		
いじめ(被害経験)	ある	ない	無回答	ある	ない	無回答	ある	ない	無回答	ある	ない	無回答
ある	91人	124人	9人	126人	91人	0人	56人	34人	0人	45人	7人	0人
	40.6%	55.4%	4.0%	58.1%	41.9%	0.0%	62.2%	37.8%	0.0%	86.5%	13.5%	0.0%
ない	69人	127人	3人	72人	121人	0人	144人	178人	1人	245人	115人	0人
	34.7%	63.8%	1.5%	37.3%	62.7%	0.0%	44.6%	55.1%	0.3%	68.1%	31.9%	0.0%
割合差(ポイント)	5.9	△ 8.4		20.8	△ 20.8		17.6	△ 17.3		18.4	△ 18.4	

令和3年度児童相談所一時保護所第三者評価の結果について

令和4年3月22日
家庭支援課

令和元年に米子児童相談所一時保護所内で発生した施設内虐待を受けて取りまとめられた「米子児童相談所施設内虐待事案に係る再発防止策検証結果報告書」等の内容を踏まえ、令和2年度に続いて県内3か所の児童相談所一時保護所の第三者評価を実施しましたので報告します。

1 概要

国の調査研究事業である平成30年度子ども・子育て支援推進調査研究事業「一時保護の第三者評価に関する研究」（三菱UFJリサーチ&コンサルティング）で報告されている第三者評価基準（案）に準拠し、社会福祉・保健サービスの評価を行う専門機関として県の認証を受けた機関に委託して実施した。

2 評価機関

特定非営利活動法人あいおらいと 理事長 田中 進（鳥取市）

⇒昨年度の指摘事項を中心に再度評価を行うことで指摘事項の改善の徹底を図るため、昨年度も評価を行った同法人に委託。

⇒児童相談所業務経験者が在籍しており、他県の児童相談所一時保護所においても第三者評価を実施。令和3年度は、島根県、徳島県及び福岡県において第三者評価を実施。

3 日程

相談所	中央	倉吉	米子
自己評価	R3. 11. 1～R3. 12. 9	R3. 10. 1～R3. 12. 1	R3. 9. 2～R3. 12. 9
訪問調査	R3. 12. 16～17	R3. 12. 7～8	R3. 12. 21～22
結果報告会	R4. 2. 10	R4. 1. 6	R4. 2. 18

4 評価項目

以下のとおり、5部構成・64評価項目にわたり評価を実施した。

	内容	評価項目数
第Ⅰ部	子ども本位の養育・支援	14項目
第Ⅱ部	一時保護の環境及び体制整備	15項目
第Ⅲ部	一時保護所の運営	25項目
第Ⅳ部	一時保護所における子どもへのケア・アセスメント	6項目
第Ⅴ部	一時保護の開始及び解除手続き	4項目
	合計	64項目

5 評価結果（数字は項目数）

評価ランク	中央				倉吉				米子			
	s	a	b	c	s	a	b	c	s	a	b	c
第Ⅰ部	0	11	3	0	0	10	4	0	0	8	6	0
第Ⅱ部	1	13	1	0	3	9	3	0	2	12	1	0
第Ⅲ部	0	17*	7	0	0	20	5	0	0	18	7	0
第Ⅳ部	0	6	0	0	0	6	0	0	0	5	1	0
第Ⅴ部	0	4	0	0	0	4	0	0	0	4	0	0
合計	1	51	11	0	3	49	12	0	2	47	15	0
割合(約)	2%	81%	17%	0%	5%	76%	19%	0%	3%	74%	23%	0%

*1項目評価未実施（評価対象事例なし）

[評価ランク]

s：優れた取組みが実施されている。他の一時保護所が参考にできるような取組みが行われている状態

a：適切に実施されている。よりよい一時保護の水準・状態、質の向上を目指す際に目安とする状態

b：やや適切さに欠ける。「a」に向けた取組みの余地がある状態

c：適切ではない、又は実施されていない。「b」以上の取組みとなることを期待する状態

6 前年度結果との比較（数字は項目数）

評価ランク	中央		倉吉		米子	
	R3	R2	R3	R2	R3	R2
s	1	2	3	6	2	3
a	51	44	49	42	47	37
b	11	17	12	16	15	24
c	0	0	0	0	0	0
合計	63※	63※	64	64	64	64

※全ての児童相談所で、a 評価が増

※1 項目評価未実施（評価対象事例なし）

7 総評

ア 評価の高い点

相談所	評価内容（要点抜粋）
中央	(1)入所時、「一時保護所の権利ノート」と「生活のしおり」を用いて子どもの意見表明が保障されていることを伝えている。また、毎週「子ども会議」を開催し、職員の対応等についてアンケートを実施して子どもの意見を聴取している。子どもの意見は、職員で共有するとともに「子ども会議」でも取り上げて子どもと情報共有しながら対応している (2)子どもごとに日課が組まれ、子どもの特性に合わせて生活上のルールを随時変更するなど柔軟な対応ができています (3)令和2年度の第三者評価受審結果に基づき、マニュアルの整備が行われている
倉吉	(1)令和2年度の第三者評価の結果に基づき、「子どもの最善の利益」を目指した職員の意識向上が顕著に見られている (2)倉吉児童相談所の独自の「理念・基本方針」の策定に向け、検討会を立ち上げ十数回の議論を重ねた結果、その大枠ができあがっている。このような、職員の合議による理念の検討が進むことは高く評価できる
米子	(1)子どもごとに日課が組まれ、子どもの特性に合わせて生活上のルールを随時変更するなど柔軟な対応ができています (2)令和2年度の第三者評価受審結果に基づき、運営体制の見直しやマニュアルの整備が行われている。日々、子どもの支援を振り返り、子どもの最善の利益を目指した一時保護所の体制整備に取り組んでいる

イ 今後期待される点

相談所	評価内容（要点抜粋）
中央	(1)様々な職員研修を行っているが、一時保護に「特化」した研修は未実施。会計年度任用職員を含めた一時保護所全職員について、より実践的な研修体系を構築することが必要
倉吉	(1)年度当初に、児童福祉法、一時保護ガイドライン、子どもの権利等について研修が行われているが、一時保護所の会計年度職員についての計画的な研修がないため、研修体系の構築や一時保護業務の役割等について研修が必要 (2)令和2年度の第三者評価を受けて各種マニュアルが充実してきているが、不服申し立てのマニュアルが未完成であり、今後の整備に期待する
米子	(1)子どもの一時保護所入所後、定期的に意見の聞き取りが行われているが、子どもからの要望に対してタイムリーに対応できていないことがあり、今後の取組が必要 (2)夜間指導員への引継ぎにおいて、一時保護の目的や支援内容の不明確なものがあったため、今後は一時保護の目的や支援の内容を明確化することが必要

ウ 検討が必要な点（全て又は複数の一時保護所の共通事項）

- 各児童相談所とも年度初めに倫理規定や一時保護ガイドライン、子どもの権利等について職員全員を対象に研修を行っているが、中央児童相談所及び倉吉児童相談所においては、会計年度任用職員に対する計画的な研修が行われていないため、研修体系の構築が必要
- 検食について、中央児童相談所及び倉吉児童相談所は子どもが食事を行う前に実施されていないため、改善が必要
- 重大事件に係る触法少年の一時保護に関するマニュアルについて、作成の検討が行われているものの、未完成のままとなっている。触法少年の一時保護におけるマニュアルの策定が必要
- 令和2年度の第三者評価の結果に基づき、マニュアルの改定が行われ、データベースに掲載したり、宿直室に置いたりするなどの取組を行っているが、職員全体への周知が不十分であり、周知や内容を理解するための研修が必要

8 令和4年度の予定（各児童相談所）

評価が「b」となったもの及び今後検討が必要な点について重点的に改善に取り組むとともに、引き続き第三者評価を受審し継続的に業務改善を図る。